

市長と語る～まちづくり懇談会～ 東野

日時：令和元年 8 月 27 日（火）午後 7 時～8 時 35 分

場所：東野コミュニティセンター

開会

■副会長 新しい市長になってから 3 回目となる。10 年、20 年先の東野を見据えた貴重な意見をいただきたい。これより開会する。

地域自治区会長あいさつ

■会長 私からは地域要望の説明をしたい。初めに各自治会から地域要望を 6 月 30 日までに出してもらった。その要望を携え、開発振興会役員、市議とともに市へ行き、副市長や部長と懇談して要望してきた。その内容を少し紹介する。

建設部関係で 14 件あった。改修するというものが 6 件、一部修繕が 3 件。市で見てまだ直さなくていい、様子を見るというものが 2 件。緊急対応は 1 件で既に済んでいる。県の回答待ちのものもある。予算的に、今年は無理で来年度以降考えたいというものもある。14 件のうち 80% ぐらいは回答をもらって今年中に何とかできるというものだ。

もう一つ、農林部から 5 件。水路を直すなどの案件。その中で、地元負担でやりなさいというのが 3 件ある。それで、開発振興会と農地管理組合とも相談し、ある程度多面的で修繕できるということで、多面的の役員会で話し、この 3 件は地元負担なしでやれるように検討している。農道の舗装。これは県単や市単があり、どうしても地元負担が欲しいという案件もあり、検討中。もう一つは、継続審議中のもので、三郷用水は向島のところで一部鉄板が破れているなどの件があった。これも市から不良箇所の改修をするということで、逐次工事を進めている段階で、順番待ちで、市でも把握してくれて、進めてもらっている。もう一つ、まちづくり企画部で、昭和の時代に各お宮や小さな公園に遊具を作ってもらった。そのうち 1 カ所が残っている。その遊具が古くなって危ないので、市とも相談して、市は補助金がないということで、地域、自治会、地元で修理すべきという回答だ。これも振興会で検討してやっていきたい。

今日は、10 年先、20 年先ということで、前年の市長と語る会で私が申した、何とか皆さんの御意見を知ってほしいということで、2 月に各地区、世帯 1 つということでアンケートを採った。その結果に基づいて今日懇談会をしたい。それに基づいて皆さんと相談して、これから東野をどうしていくか、懇談会をしていきたい。

市議会議員あいさつ

■市議 今日新しい市長になってから3回目の地域懇談会だ。戦後74年が経つ。今まで右肩上がりの経済、人口だが、今一番課題になっているのは少子高齢化、人口減少。今ここに居る人たちが経験したことのない時代に入っている。

それと、恵那市は合併して15年になる。それぞれの地域で課題が全く違う。行政全体の課題と、地域それぞれ文化が違い、その中での課題が違うので、地域に合った行政が市に求められる。今日はそのような地域の課題をしっかりと市長に伝え、これから新しい恵那市、東野づくりにつなげていただきたい。

当面は2027年にリニアが開通するという夢のある話が進んでいる。東野は地域的に大変恵まれたところなので、その辺の夢のある話を語っていただき、10年20年先、「おじいやおばあがいいことをやってくれた」と言われるようないい懇談会になればと思う。

「はたらく」「たべる」「くらす」「まなぶ」の主要事業について

■市長 東野について。人口は平成17年1,801人、平成30年1,701人で100人減。減り幅が少なく、大井、長島に次ぎ3番目だ。ほかの地域に比べると減ってないようだが、いいわけではなくて、減っていることは間違いないし、これから先これがどうなっていくかよく見ないといけない。

生まれる子ども。平成17年14人、今いるのは9人。5人転出した。平成28年に生まれた子どもは7人で、2人引っ越して来て今は9人いる。平成30年は21人生まれ、今は2人減って19人。東野全体で見るとすごく減っているわけではない。ただ、まだまだやるべきことはたくさんある。

事業について。要望に沿って、市道舗装の修繕を行なっている。白坂の近所のへこんだところ、東野9号線の側溝修繕、浜井場入口の修繕が予定されている。林道は番屋林道の法面の修繕。

流路整備。林の仕事だと思うが、保古の湖用水の少し下の辺り、9月発注予定で今動いている。山本用水の改修工事は10月発注で、今準備している。農業が終わってからになる。

学童保育所。今年4月に東野小学校の教室の一部が学童保育所としてスタートした。関係の皆さんには大変御尽力いただき誠にありがとうございました。

恵那山荘。東野の観光といえば恵那山荘だと思う。平成25年に6,600万円だった売り上げが7,600万円まで持ち直しており、全体として上がっている。ただ、決して経営としては予断を許さない。東野の皆さんにはほかの地域にもまして御利用いただきたい。

恵那山荘の前を走っているのがL1 RALLYで、昨年秋には東野地域の皆さんには大変お世話になった。多くのお客様にご覧いただくことができた。今年も根の上で開催する予定で、来年は世界選手権という声も聞こえてきた。そうなればこの道がおそらく使わ

れる。その折には多くのお客様に来ていただけるし、東野を挙げて歓迎していただきたい。

意見交換

■司会 まず、アンケート結果を基に意見交換をする。市長、副市長、まちづくり企画部長、建設部長、農林部長、市議会議員、東野小学校PTA副会長、東雲連合会会長、東野地域自治区・東野開発振興会会長、副会長2名に願います。

アンケートの結果を見ると、回答者が男性63名、女性29名、合計92名。東野の自治会加入世帯が4月1日現在で424世帯なので、回答率22%。このことについて会長はどのようにお考えか。

■会長 このアンケートでは、リニアができる、隣では正家の区画整理ができるということで、将来東野をどうしようかということで、10年後、20年後どうしたらいいかと、各世帯1つ、424世帯にアンケートの提出をお願いしたところ、92名から回答があった。全体から考えると、22%の回答率ということで、少し残念だと思ったが、この92名のアンケートを出された人は、東野を思って10年後20年後ということでアンケートを出したということで、このアンケートを重視してこれからを進めていきたいと思う。

内容は、いまここにいる副会長やPTAなどでアンケートに基づいて意見を述べさせていただき、後ほど市長初め皆さんから意見をいただき意見交換したい。

■司会 アンケート結果。

満足度。非常に高い数字だ。満足とやや満足を合わせて59人、64%が東野の生活に満足している。

10年後も東野に住んでいるか。71%が、住んでいると回答。

満足度が低い項目は、公共交通の便が悪いが21%。道路の安全性が低いと、日用品の買い物の不便が11%。

若い世代からの声として、東野小学校PTA副会長から発言をいただく。

■PTA副会長 東野といえば田んぼ、山が守られ、自然に富んだ環境だ。ただ、子どもの数が、大きく増えるときが少ない。人口がもう少し増えて子どもの声が聞こえるような画期的な東野になるともつといいと考える。

■司会 アンケートを実施した側の副会長はどのように思われるか。

■副会長 満足度については、私も東野に住む人間として、満足が高い。東野は自然が豊かで空気も非常にいい。少し行けば恵那、中津川に近く、買い物も便利だ。さらに、正家に新しく商業施設ができることや、坂本にリニアの駅ができる。ますます便利なまちになってくると思っている。今後の東野のまちづくりでは、土地の利用が課題になると思う。特に、商業施設の誘致、企業の誘致、住宅地の造成が課題だ。

満足度が低い点では、公共交通の便が悪いとあるように、車が運転できるうちはいいが、

運転ができなかったときにどうするかという不安の表れが出てきている。道路の安全性が低いという点では、東野の道が非常に狭いことが原因だと思う。

東野には買い物に行こうとしても1軒もコンビニもないということで不安も感じている。商業施設が誘致されれば良いと思う。

■司会 副会長。

■副会長 交通機関のあり方、道路の安全性、土地利用については、東野のまちづくりとして今後検討していく必要がある。そのためには行政の力を借りながら具体的な姿を描いていかなければならないと思っている。

そのほか、アンケートの意見の中に、東野といえば田んぼ、山がある。私もほかの家の農作業の受託をしている。最近休耕田が増えている。これは、今まで農業をしていた人が高齢化で順に作業ができなくなってきたのが大きな要因だと思う。最近企業や百姓もそうだが65歳定年という会社も増えているし、定年後の再雇用で、60歳で定年になってもそれから5年6年とその会社で働けることが増えており、なおさら後継者不足の問題が深刻になってくると思う。また、それに伴い、東野も空き家が徐々に増えている。私は今農業委員をやっているが、1件空き家に入られた人もある。特に農業は、今後どうやって担い手を作っていくかということをお東野全体として考えていかないと、休耕田どころか耕作放棄地が増えることも感じている。

また、林業も、3つの生産森林組合は、市の森林組合に委託して間伐しており、山の木は何とかそれなりに育っていると思うが、幸い個人の山の面積は少ないが、山の姿が荒れており、境界も分からないところがたくさんあると思うので、その辺もまた今後のまちづくりの中で検討していく必要があると考えている。

■司会 耕作放棄地、農業の後継者の問題、公共交通の便が悪いといったことが挙げられたが、東雲連合会会長はどのように感じるか。

■東雲連合会会長 個人的な意見を述べる。

満足度。私も満足してここに住んでいる。その要因の一つが、風景の良さ。中心地に広がるなだらかなところのよく耕された農地と家並みが気に入っている。今後もこんな風景が続くといいと思う。

農業、耕作放棄地の課題。後継者の問題もあるが、小規模耕作の採算性の問題もあると思うので、今後いかにしてこの風景と併せて東野の田を維持していくかが重要だと思う。

平地の周辺にいい傾斜の宅地になる山というか耕作放棄地というか、法規制の問題もあると思うが、利便性もいいところなので、地理的条件も加味しながら、住宅地として開発していったら、東野の人口もここ13年で数%しか減ってないが、定住人口の増加まではいなくても維持のために、住宅ができたらいいと思う。

公共交通が悪いという話だが、生活地域内の交通手段は自家用車に頼っており、今の時

点で公共交通がどうということあまり関心が薄い、将来の問題だと考えている。高齢化すると運動機能が低下するので、交通事故などもあり、60 何歳以上の免許証の返納の話も出ているが、それはなかなか受け入れるわけにいかない、私どもの交通事故防止の意識と合わせて、車そのものの性能、交通安全、交通事故防止に対する車の性能の向上を大変期待している。衝突防止やペダルの踏み違いのような安全運転のための装置が一層充実して、高齢者にとっても地域の生活手段の大切な足として車を利用したいと考えている。

■司会 市議はどう感じるか。

■市議 アンケート結果が少なかったというのは、不満が少ないのでアンケートに答える人が少なかったのではないか。不満を訴える機会がアンケートの場合には多いし行政に対する意見が出るということなので、意見がないというのはある程度満足しているという言い方もできると思う。

まちづくりの住宅供給の話があり、私がテーマをもらっているのはまちづくりをどうするかということだが、阿木川の向こうは市街化が進みつつある。来年の今頃はネオンキラキラという街になってくる。東野は隣接しているので、今後は農業と関連した中で、耕作放棄地とってはいけないがこれから百姓を続けていけない人の意見を聴きながら、一部をしっかりと宅地化をする。スプロール化みたいに街を作ると投資効果が表れないだろうし、基盤整備に金がかかるので、できれば東野は東野の勉強会を開いて、地域に合った、どういう形がいいかをもう少し詰めて、農業を続ける地域とそれを転用させる地域にこれからしっかりと検討していく必要があると思う。この辺は、意見は意見として地域から出すが、行政もある程度強烈なリーダーシップで、行政としてのまちづくりの意見も出していきたい。

公共交通は恵那市としてもデマンドという形でやっているが、決して成功しているとはいえないので、このことについても東野バージョンを考えていけばいいと思う。今、県道や、向島から入って小野川まで行くバスが定期的に走っている。ほとんど乗っていない。空気を運んでいる。これもすごく金がかかるので、これを廃止してこれに代わる利便性のある交通弱者に行政として何か適用されれば、地域のまちづくりの中で提案して行政と擦り合えばいいと思う。あるものをなくすとするとすぐ意見が出る。話を聞くと1年に1回しか乗らないと。なくなると現実の問題としては税金を使っている、その辺は皆さんで話をして東野バージョンをやればいい。

道路の整備は、ほとんどが圃場整備をして道路整備をしており、そのときに道もあまり広がらなかった。私が常々思っているのは、道路造りは、家が連担しているところは安全面からいくと反って車が走らなくて狭い道の方がいいと思う。車を走らせない道路を造るという手法もある。広い道を狭く、花壇のようなものをたくさん作って、車がスピードを出さないような造り方もある。家のないところは道幅を広げて1.5車線でもいいので、

この辺も皆さんで勉強して東野バージョンを作って、なるべく金がかからず成果が上がる道ができればいい。地域のまちづくりで考えていくべきだ。

山と農地。面整備に含めて、耕作放棄地もすべてトータルでの話なので、それについては東野で勉強会を開いて、どうしていくか、皆さんの意見を総括する中で進めるべきだと思う。山は先祖が残した3つの森林組合がある。全体的に見ればほとんどが地域の山なので、管理などは当面はそう問題はないと私は思っている。東野の一番基になっているのが山だ。小学校の校歌にも、2番に「仲間の山」というのがある。東野では山がまちづくりのベースになっているということだ。心配していない。厳しい時代なので、行政としては、なるべく山の管理の中で、少しでも地域の中へ手を出してもらって公共的な援助をしてもらえればいい。

■司会 市から意見をいただきたい。

■まちづくり企画部長 公共交通について、他地域の事例や今後の市の考えを紹介する。

公共交通の便が悪いというところが不満の理由のトップだということだ。びっくりしている。自主運行バスもあるし明知鉄道もあるしタクシーも呼べばすぐ来る。このような環境の中で、自主運行バスは小野川線が平日のみ運行で、上り下り1日朝昼晩3回だけというのが原因なのかと思う。

ほかの地域の事例。自主運行バス。この地域のも小野川線で1本走っているが、収支率が非常に悪く、岩村が2.6%、山岡が4.2%。東野も6.7%で決して高くない。恵那市の自主運行バスの運用指針では20%未満になると地域で検討組織を立ち上げれば地域に合ったものに変えていくということが示されている。岩村、山岡はデマンド方式で昨年10月から地域で話し合っ、運行は業者委託方式だが、変えた結果、状況としてあまりよくない。特徴としては、事前に予約が必要だということがあるが、今まで乗降バスより近いところに来てもらえるというメリットがあるが、高齢者はわざわざ電話して来てもらうというのは申し訳ないということで利用が伸びていない。

平成25年に、東野も、20%未満だったので、地域で検討組織を作ってほかの方法を検討されたようだ。その段階でデマンド方式も検討されたようだが、その方式だと従来のバスの運行経費より当時は高くなるということもあって現在に至るようだ。最近いろいろな技術のものも出てきているので、改めて自主運行バスについて考え直すこともしていただければと思う。

ほかの地域では、地域内に限るが、白ナンバーの車を使った無償移動支援もやっている。中野方では社会福祉協議会の支援によって地域内移動支援を実施している。山岡はデマンドとセットで、デマンドのバス停まで地域のボランティアが送迎する。そういう地域のまちづくりの取り組みということで、恵那市のまちづくり補助金を活用して実施している。

少し状況が違うが、飯地と串原は、公共交通のサービスが何もされていないので、陸運

局から白ナンバーを使って有料の運送が認められるという法改正がなされて、現在それに乗って地域内で、運転手は地元の人で、有料の運送をやっている。

法令の縛りによってできることが限られるが、今年の懇談会の一つのトレンドのようになっている。高齢者の事故多発で、高齢者の免許返納問題に関して、地域内で免許を返戻した後の移動手段がないということに不安視する声が多く、大井、長島という市街地でもそういう声が聞こえている。まだ決定的にどうしようということは具体的に決まっていないが、新たな交通手段の研究も行いつつ、周辺部の地域だけの問題ではなくなってきているので、恵那市全体の問題として移動支援の充実について検討していきたい。

■建設部長 まちづくりの中のハード整備について、考え方を述べる。

今まで恵那市がやっているまちづくりは、面的整備では区画整理事業が代表的だ。市役所を中心とした正家第一区画整理、恵那駅前停車場線を挟んだ大崎地区の区画整理、現在やっている正家第二区画整理で、約50haの新しい市街地を拡大する事業をしてきた。人口減少の中で新しい住宅地を含む市街地が拡大することは人口の増加につながるということでしてきたが、中心部が増えても外縁部が増えず、全体としては全国的に人口減少になっている。公共事業だけで住宅地を開発するのは難しいので、今年6月に住宅団地開発支援事業奨励金という補助制度を設けた。民間の事業者が住宅団地を3,000㎡以上開発すると、それに対して道路、水路、水道、下水を整備する補助金を出すことで、良好な住宅地が確保できる。これはまだ始まったばかりで具体的な事業が決まっていないが、今後民間の力を借りて住宅開発を進めていきたいと考えている。

東野は便がいい、市街地と近いと言っていた。便がいいことと施設があるということは違うので、それを一体的に考える場合は、どのような地域づくりをするかということで、地域でまず考えること、そしてどのようなまちを作っていくかということ。アンケートにあるように、まちづくりをしたいという熱意があれば、行政としては、先ほど積極的なリーダーシップを期待したいという言葉はいただいたが、そういった提案をしていきたい。できれば今年うちに地域で勉強会を多くの方に参加いただけるように、振興事務所長にお願いしたいところ、勉強会を開催するようなので、一足飛びにはできないが、皆様の考え、世代間の考えを聴きながら進めていきたい。

ただいまリニアの事業が進んでおり、瑞浪恵那道路が武並長島地区で進んでいる。そういうものを契機にまちづくりを考えていただいている。まずは地元の方々に土地利用やまちづくりをしたいという熱意を示していただきながら、行政も一緒になって進めていくという手法をしているので、積極的にかかわってまいりたい。

■農林部長 農林業の現状と対策について。農地は農地として耕作され、森林が手入れされていることで東野の農村景観が保たれ、それぞれの生産活動が継続的に実施できることが重要であると考えている。東野では3つの生産森林組合があり、東野地区の8割以上が、

生産森林組合が所有している。森林のうち、杉、ヒノキなど人工林の割合が 8 割を超えており、そのうち 75%が、継続的に森林整備が行なわれている。これは市内の 50%を大きく上回っている。森林としては継続的、計画的に施業が行われている。今後も生産森林組合の皆さんにおかれては、林業生産活動を初めとして、森林の持つ多面的機能維持、保全のためにも計画的に取り組んでいただきたい。

私の森林については、今年度国の環境譲与税が譲与され、新たな森林活動が開始される。個人の持っている森林で、手入れの行き届いていない森林は、所有者の意向を確認して、経営を市に任せたいという意向の人については、市が環境譲与税を活用する中で森林整備を進めていく。今年度は明智と串原と笠置で試験的に実施し、順次区域を広げていく。また、森林の施業を行う上で、市としても森林施業に携わる担い手の方の確保と育成も今後継続して行っていきたい。

耕作放棄地は、東野では農地全体の 13%ある。市内全体での 16%よりは低い。しかし、市全体では農業に従事する人の平均年齢が 68 歳で、高齢化が進んでおり、今後も耕作放棄地の増加が懸念される。

市として、耕作放棄地の解消並びに抑制対策として、現在農業委員、農地利用最適化推進委員で、東野地区の農地の耕作放棄地の現地調査、農地パトロールを行っていただき、図化している。そして、今後農地を所有している人に対して、現在の農地の状況、今後の農地を耕作できるのか、また、担い手に任せたいのかの意向の調査を行う中で、データを整理した状況で東野の農業振興協議会を中心として、地域として農業の振興、生産活動、耕作放棄地の解消等、話し合いをして、進めていきたい。

担い手の確保育成が重要だ。東野では営農組合といった営農を行っていく地域の集団がない。市内では約 30 の営農組織があり、11 が法人化している。ある地域では、法人化されたところでは、20 代、30 代の若い人を法人の従業員として雇用し、地域の営農を担っていただいている。当地域でも将来的な耕作放棄地の抑制も踏まえて、地域の皆様と共にそういった営農組織の設立等も検討していきたい。

耕作放棄地が発生する要因として、鳥獣害も発生する要因となっている。東野では現在地域全体を鳥獣害から守る柵の設置を計画している。来年度の事業に向けて引き続き調整したい。また、農業全体として、時代に即した農業ということで、ICTを活用したスマート農業にも取り組んでいきたい。今後も地域の皆さんと一緒に取り組んでいきたい。

■副市長 要望活動のことを先程丸山会長から言われたが、恵那市 13 地域の中でしっかりと要望活動をして、かつ回答もしっかり求め、進捗管理をしているのはここが一番すごい。逆に言うと私は大変だ。しっかり話したい。

アンケートで気になったのは、公共交通の便が悪い 46 人。アンケートに答えている人の半数だ。ということは、これが将来にわたって大事なことだと思っていることが分かった。

公園等の憩いの場が近くにない、というのも出ている。これは各地域でもこの頃出始めている。このことをしっかり考えていかないといけないと思う。医療・福祉サービスが不十分、子育て環境が不十分。8人とか5人。ここは市としてはどうしても外せない。病院は、産婦人科を開業し、現在200人以上の人が、子どもを恵那病院で産んでいる。その半数が中津川市の人だ。それぞれ医療の関わり方、考え方の差によってこちらに来ていると思う。恵那病院を活用してほしい。

公共交通について。どうしても解決しなければいけない問題だと思っている。今回地域懇談会に行ってもこの地域でもこの話が出た。地域だけで解決できる問題ではなくなってきたということを聞いている。一つは、市で全体の公共交通機関のあり方をもう一度考える。地域に入って皆さんと一緒に解決しないといけない部分、細かい部分は、ひょっとすると地域で解決していただくことになる。お願いしたい。

今市が考えているのは、トヨタ自動車とソフトバンクが一緒になって、モネ・テクノロジーという会社を作った。豊田の旧小原村で実証実験を今やっている。スマホを使って「迎えに来て。」というやり方。それと電話と両方の回線でやっている。これを市も協定を結んでその中に入って公共交通のやり方を考えていきたい。

■市長 今日、いろいろ御意見をありがとうございました。さまざまな事業については副市長と各部長から申し上げたとおりだ。私から全体を通しての感想を述べる。

僕は朝晩、仕事がないときは、犬の散歩で家の近所を歩く。明け方、日が沈む前、夜になるとマムシが出たりするのでなるべく明るいうちに歩いている。東野の風景が、いかにすばらしいか。これを改めて感じる。笠置山が見え、私のところからは御嶽、恵那山、山々が見え、鳥のさえずりが聞こえる。こうした自分たちが今暮らしているところのすばらしさをかみしめて感じるのは、先代がいかにこういうものを残してくれたかということだ。今思いっただけメモしたが、すごくある。山に関しては、森林組合。役員をやって勉強したら、この山を造るために先代の皆さんはものすごく努力している。保古の湖を造って農地を造ろうと言って、白坂はそれで開拓されて今農地ができています。養蚕で過去にはすごく東野が名をはせて、大きな何とか館と言われる家があって、そこですごく手広くやったこともある。近いところでは、阿木川ダムができて道が大幅に変わり、すばらしい景色が生まれている。それに伴い、圃場整備もされている。

明治に改元されて今年で150年か151年だが、わずかにその間に大規模なプロジェクトが、保古の湖も含めて東野ではすごく行われたということを改めて感じる。先代もしくは前の皆様たちがいろいろな大きなことに取り組んだ結果を、私たちは今ここで享受して、すばらしいと思って生きている。私たちは今これを守るために今と同じ暮らしをしていたら守れるわけではないということだ。少しでもこれから先私たちが自分たちの子どもや孫たちに何が残せるかと思ったときに、そのために今何をすべきかを考えるべきで、そこは守る

のではなく攻める、もしくは挑戦する、チャレンジするということが必要だと今改めてこの場の皆さんのお話を聞いて感じた。

宅地化を含めていろいろなことが考えられないかと。公共交通、暮らし、農業、林業の話があった。こうしたことを、今日はこういうテーブルで皆さんとやったが、回を重ね、勉強会でもいいし、いろいろな場で知恵を出し合い、将来の東野がどうあるべきか、リニアが来た後にこのまちはどうなるのか、こんなことを考えていただくことが、子どもや孫に対して「ここで住もう」「住んで良かった」と言ってもらえるまちになると思う。今日は大変有意義な会を設けていただいたことに改めて感謝申し上げます。

■司会 それぞれの立場から発言をいただいた。会長から何か意見は。

■会長 開発振興会から、また関係者から質問を出し、市からいろいろな意見、アイデアをいただいた。まず勉強会を今年中に何らかの形で開いて、将来の東野を何とかしていきたい。明治、大正、昭和、平成、何かを先代が行なっている。私たちは令和の時代に何かを考えてやっていかないといけないと思う。その節には皆さん勉強会に参加して、東野のためにいろいろな意見を出していただければありがたい。

■司会 より詳しく知るために勉強会を開催し、東野の将来を考えていきたいとの提案だ。皆様の御出席と御協力をよろしく申し上げます。

会場の皆様から意見を聞く。

(意見なし)

■司会 行政への意見は、広報えなに折り込んでいる広報直通便でも受けているので利用してほしい。その他の意見があればお手元の用紙に記入し帰りに箱に入れてほしい。後日の場合は振興事務所に提出してほしい。

市長お礼のあいさつ

■市長 本日はありがとうございました。さまざまな立場でいろいろな意見をいただいた。今日はできる範囲のことで答えたが、ほかにも言いたいことがあれば、振興事務所や担当部署に寄せてほしい。4月から振興事務所長も一生懸命頑張っている。ぜひ寄っているいろいろな話を聞かせてほしい。

閉会

■副会長 多くの皆さんに参加していただきありがとうございました。市や市議には貴重な御指導をいただきありがとうございました。地域住民と一緒に住みよい東野をつくっていききたいので今後も御指導をお願いします。これで終了する。

[閉 会]